

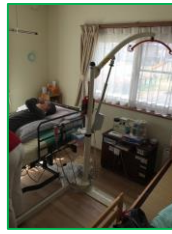
【事例紹介】全介助からの自宅退院

回復期病棟には全介助の状態での入院されてくる患者さんもいらっしゃいます。その中でも、積極的なリハビリ・自宅環境や介護保険サービスの調整・ご家族の熱心な協力を経て、重度の障害がありつつもご自宅に退院できた方がいらっしゃいました。病院スタッフもどうやって自宅で生活を送るかを考える良い経験となりました。



入院時は全介助

意識レベルも安定せずADLは全介助でした。装具を装着して毎日歩行練習を頑張りました。



リフトの導入・介護指導

退院後、車椅子の乗り降りの介護負担を減らすためリフトのレンタルを提案。入院中にOTがご家族に使用方法をレクチャーしました。他にも吸引やオムツ交換の指導を看護師が行いました。

少しずつ変化!

しっかり目が明くようになり、声をかけるとうなずいたり、手を動かすことも。シェーバーを持つと自分で髭剃りが出来るようになりました。



サービスを調整し自宅退院!!

家族指導を進め、退院後に不安なところは介護保険サービスを調整し、自宅に退院することができました。リフトの操作も手慣れたものです。



リハビリティ新聞



豊田えいせい病院
2020年
6月25日
第14号

低周波治療器によるリハビリ

当院では脳や脊髄疾患等、主に中枢神経に障害がある方に対して必要に応じて低周波治療器によるリハビリを実施しています。

運動麻痺により筋出力が減弱、消失した方に対して利用し、筋収縮を誘発する事ができ、徒手訓練と併用して訓練に導入しています。患者さんが手を動かそうとすると、筋肉に微弱な電気が発生します。それを電極が捉え、それに応じた電気刺激を発生し、筋肉の動きを増強させ、動かなくなった手を動かします。その結果、脳の運動学習が起きて、脳細胞の再構築が促されます。

低周波治療器
(MURO ソリューション)実際の治療風景
ベグボードと併用した運動

足のむくみ予防の運動

～リハビリ小ネタ～

靴下を脱ぐとゴムの跡がくっきりとついてパンパンにむくんでいることはありませんか？足の甲やすねを指で押してしばらく凹んだままだと足がむくんでいる証拠です。足のむくみはずっと座っているなど血流が悪い状態が続くことが原因の一つです。我々もむくみ改善の運動を指導することがありますので、いくつか紹介します。(内臓の病気でもむくむ場合があります。気になる方は医師に相談してください。)

血流を良くするためには筋肉を動かすことが大切です。足首や足の指を動かし、筋肉が伸び縮みし血流が改善します。写真のようにつま先上げ、踵上げ、足の指のグーパー運動が効果的です。「足は第2の心臓」と呼ばれるくらいです。高齢者に限らず現代人は立って歩くことが減っているとされています。たくさん足を動かしてむくみを予防しましょう。



足首の運動(つま先上げ,踵上げ)



足の指のグーパー運動

Best Doctors

杉山 憲嗣

2020-2021

脳神経外科 杉山憲嗣医師
ベストドクター社の
BestDoctorsに選出

豊田えいせい病院 診療技術部

回復期リハビリ科 TEL: 0538-34-6123 FAX: 0538-34-6231
療 養リハビリ科 回復期リハビリ科と共通
通 所リハビリ科 TEL: 0538-34-6223 FAX: 0538-34-6222
訪 問リハビリ科 TEL: 0538-34-6137 FAX: 0538-34-6231